

未加入者の加入促進・未組織への運動強化

今後の熊自交の運命を掛け展開しよう

(熊本地連)

2012年3月11日 2012年春闘熊自交執行部討論集会を開く。



熊自交は、3月11日、熊本市・県労働会館に於いて、「2012年春闘熊自交執行部討論集会」を開きました。冒頭、開会挨拶の中で、ちょうど1年前の3月11日に発生した大地震・大津波、そして原発事故の東日本大地震において尊い命を失われた方々に参加者全員で黙とうを捧げました。佐藤委員長の「3月11日に発生をした大地震・大津波そして原発事故の東日本大震災は1万8千人を超える死者及び行方

不明者を出す、まさに未曾有の大惨事と相成りました。改めて尊い命を失われた方々に深く哀悼の意を表すと同時に、いまだ、復興のめどすら立っていない被災者の方々に対し心よりお見舞い申し上げる次第でございます。

また、4月には私たち熊自交の組合員がタクシー強盗の被害に遭遇し尊い命を失うといった悲惨な事件が発生をしました。その意味から2012年は過ぎ去った過去の苦しみや悲しみを一掃し大きく飛躍をし、働くものが報われえる働きがいのある職場環境を確立することが急務であると考えるところであります。そのために本討論集会を成功裡に結び付けることがいかに重要であるかの認識を一致させることであります。また、厳しい経済環境の中それぞれの会社において、何かと労働協約、労基法や労組法の不履行等の不当労働行為が見かけられています。

厳しければ厳しいほど、労働組合の存在価値が問われるものであります。今こそ組織の強化・拡大を図り強力な組織基盤の確立が必要な事は論をまたないところであります。熊自交全組合員一丸となって、第55回大会の確認を受け未加入者の加入促進、未組織の組織化の運動を、それこそ今後の熊自交の命運を掛け展開されることを強く要請するものであります。



最後に本討論集会が成功理のもと終了し熊自交に結集をする組合員とその家族、そしてハイ・タク労働者の地位と生活向上のための活発な討論行がわれるよう期待いたします。」との挨拶がありました。挨拶のあと、重光書記長から、年春闘課題の提起があり、そのあと熊自交常任顧問森田粹彌氏による講演「熊自交 54年の歴史に学び運動を強化しよう」がありました。内容は、熊自交結成昭和 33 年 3 月とその背景、さらには、昭和 36 年に全自交労連への加盟。その後①統一要求、統一交渉の確立。②初の統一ストライキ。③統一労働協約の締結の成功。などの歴史の経過を熱く講演をいただきました。

午後からは、来賓の全自交労連本部の松永次央書記長の講演では、組合運動の原点、職場の仲間同士の挨拶など、声掛け運動から始まる団結、そして日常のそれぞれの単組（支部）における活動家の世話役の実践など、一番身近にある内容の講演をいただきました。引き続き、全自交労連、待鳥康博副委員長の講演では、「労働組合の意義と組織拡大」との題目で内容は、①労働組合の成り立ち。②労働組合の活動に対する法的な保障。③不当労働行為を許さない日常的な組合活動。④産業別労働運動、組織拡大の重要性。⑤労働組合の存在価値。などをきめ細かくかたられ、また、タクシー事業法の概要や要綱など具体的に、説明がありました。質疑では、有休に関する質疑や積算歩合の内容、組織拡大に関する取り組み、防犯対策、代行運転による白タク行為、嘱託者の賃金、不当労働行為など 5 支部、項目の質疑答弁が行われました。

まとめでは、2012 年春闘については討論集会の議論を受け

- ①改めて中央委員会の開催はせず、要求内容、要求書の提出、闘いの進め方、スト権の集約など熊自交本部一任とする。
- ②タクシー事業法については、民主党タクシー議連の法案「一般乗用旅客自動車運送事業法」の実現に向け全国の仲間と連携し、中央、地方を問わずあらゆる諸行動に参加をする。

③組織拡大については、第 55 回定期大会で確認した各支部の組織人員の達（各支部過半数以上の組織化）に向け即行動を起こす。

以上をまとめとし、閉会のあと佐藤委員長の力強い“団結ガンバロで成功裡のうちに終了しました。